

～検査だよりは検査部が年3,4回発行している広報誌です～

退任のご挨拶

検査部長 赤司 浩一

このたび、検査部長を退任することになりました。私は令和4年4月から2年間、この部長の任にあたりました。皆様のご協力とご支援に心から感謝申し上げます。

検査部は、旧医学部附属病院中央検査部の時代から続く、九州大学病院の診療を支える極めて重要な部門です。検査部は、患者さんの血液や尿などの検体を分析し、正確かつ迅速に検査結果を提供し、九州大学病院の先進医療を支えています。新型コロナウイルス感染症等の検査や予防にも早期から献身的に対応し、コロナ診療の要としてその存在感を高めました。更に様々な生理機能検査もカバーする九州大学病院の大黒柱です。これらの業務を支えるのは、全てのメンバーの高度な技術と知識、そして使命感とチームワークです。私は検査部の臨床検査技師の皆さんが、強い向上心を持ち、日々努力し協力して仕事に取り組んでいることに大変感銘を受けました。

検査部長としては、検査品質の向上、検査システム更新に加え、新しい検査法の開発や研究マインドの醸成など、検査部が更に発展できる環境作りに幾何かの貢献ができたのではと思っています。また、遺伝子・細胞療法部の部長として、検査部と協力して行ってきた輸血センター業務に加えて、専門性が高い細胞機能検査や、造血幹細胞移植・臓器移植に伴う免疫関連検査なども検査部との連携・協同の中で安定運営できるよう、新体制作りに取りかかっています。私の後任となる國崎祐也新部長には、これらを引き継ぎ、検査部のさらなる発展と病院の診療の向上に尽力して頂きたいと思います。

皆様、大変お世話になりました。高度医療を支える検査部の更なる発展を心より祈念致します。



《今号の紙面》

検査部部長よりあいさつ	…p.1
鉄分検査室	…p.2
病理部からのお知らせ	…p.3
検査部・病理部からのお知らせ	
・編集後記	…p.4





ルヴァンカップ決勝戦 国立競技場

昨年11月4日はエレベーター球団のアビスパ福岡にとって歴史的な日となった。国立競技場で行われたルヴァンカップ決勝戦で浦和レッズを破り優勝し初タイトルを手にした。

その決勝戦の応援に国立競技場へ向かう途中、東京駅柵内コンコースで北陸新幹線敦賀延伸のカウントダウン・ボードを目にした。早くも北陸新幹線敦賀延伸祝賀の雰囲気首都圏には出てきていた。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

北陸新幹線は、平成9年(1997)10月1日に最初の区間東京・長野間で部分開業した。その翌年開催の長野オリンピックの輸送に間に合う形での開業で、便宜的に「長野新幹線」と呼ばれた。

北陸新幹線が北陸に到達したのは、平成27年(2015)3月14日の金沢延伸の時、本来の名称の「北陸新幹線」と晴れて呼ばれるようになった。

北陸新幹線金沢延伸は、鉄道風景を一変させた。北陸新幹線のJRの並行在来線がJRから切り離され、第3セクター鉄道に切り替わった。それを受け日本海縦貫のJR客車列車が消えた。唯一JR貨物の列車だけが日本海縦貫の運行を続けている。

また北陸地方は歴史的、経済的に関西圏との繋がりが大きなものがあるが、北陸新幹線金沢延伸に伴い首都圏との人的、経済的つながりが増大してきている。例えば金沢延伸後、金沢での学会開催も増えている。

いよいよ3月16日北陸新幹線金沢・敦賀間約125kmが延伸開業し、新たに小松、加賀温泉、芦原(あわら)温泉、福井、越前たけふ、敦賀の6駅が開業する。最速達列車で東京・福井間と東京・敦賀間の所要時間は各々2時間51分と3時間8分となりこれまでより各々36分と50分短縮される。



北陸新幹線敦賀延伸カウントダウン・ボード 東京駅

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

正月に「令和6年能登半島地震」が発生した。厳冬期と重なり被災者には過酷な状況であり早期の復興を願うばかりである。復興後能登に多くの人々が北陸新幹線を利用して足を運んでもらえると幸いである。

尚、北陸新幹線は敦賀延伸後新大阪まで繋がられる計画であるが、敦賀・新大阪間の着工は未定である。大規模災害時東海道新幹線が不通となる可能性がある。その際迂回路となる北陸新幹線の全通が待たれる。

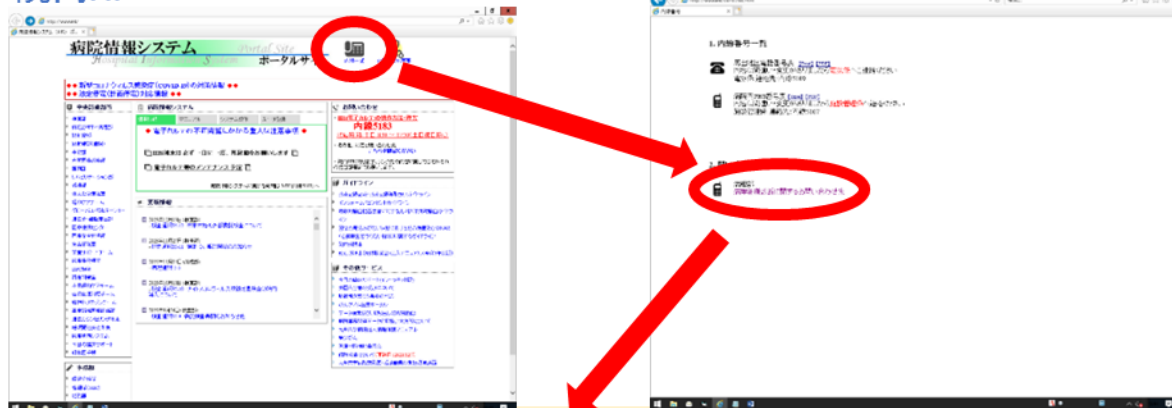
病理部からのお知らせ

日頃より病理検査業務に対するご理解とご協力、ありがとうございます。

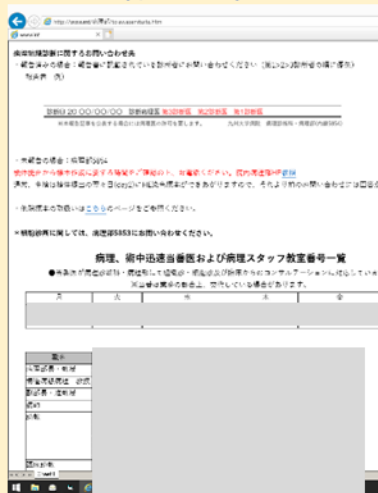
この度の検査部・病理部アンケートにご回答いただき、ありがとうございました。
皆さまからいただいたご意見、ご要望をもとに業務改善に努めてまいります。

アンケートの質問事項でも触れておりましたが、
「病理組織診断に関する問い合わせ先」の院内ホームページ掲載場所について、
今回ご紹介いたします。

院内HP



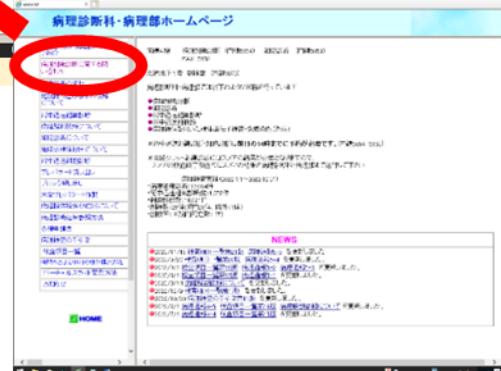
病理組織診断問い合わせ先一覧



ぜひご活用ください



病理部HPからも
アクセスできます



問合せ先: 病理診断科・病理部 (内線5854)

検査部からのお知らせ

補正Ca報告開始のお知らせ

令和5年12月1日(金)より、血清Ca、ALB検査が依頼された検体について補正Caを報告します。本補正式は従来のPayne式と比較し、イオン化カルシウムを反映していると推定されます。

項目名: 補正Ca

検査方法: 計算項目: 補正Ca = Ca + 0.4(4.6 - ALB)

問合せ先: 検査部 化学検査室(5756)

病理部からのお知らせ

検査項目開始のお知らせ

下記の検査項目が開始となりましたので、ご案内させていただきます。



項目名: BRAF V600E

保険点数: 1600点

開始日: 令和5年11月15日

使用目的: がん組織中のBRAF V600E変異タンパクの検出、大腸癌におけるリンチ症候群の診断の補助、大腸癌における化学療法の実施の補助

項目名: BRAF V600E遺伝子解析

保険点数: 5000点

開始日: 令和6年2月1日

使用目的: ダブラフェニブメシル酸塩及びトラメチニブジメチルスルホキシド付加物の固形腫瘍(大腸癌、肺癌、悪性黒色腫を除く)、及び有毛細胞白血病患者への適応判定の補助

問合せ先: 病理診断科・病理部(5854)

編集後記

「表現者のエゴとして、自分の頭の中で考えているものを形にして、読み手をその世界に引きずり込みたいという欲がある」。先日、第170回直木賞を受賞した河崎秋子さんの以前のインタビューの言葉です。受賞作『ともぐい』は、「熊」という私の最も怖れる対象を題材にした作品であり、これに強い興味を抱き、金曜の夜に購入し、気がつけばその日のうちに読み終えていました。書評は差し控えますが、確かにこの本の世界に引きずり込まれた一読者だったと思います。

私は検査部の研究者ですが、自らの志が河崎さんと共通していると感じました。手を動かし、実証した研究成果を論文として形にし、その価値の社会的重要性を問いかけてみたいという欲があります。これこそが、私の研究を駆り立てる原動力となっています。研究者もまた表現者といえるでしょう。やや気負った表現となりましたが、実は河崎さんと同じ年であることを知り、彼女のように頑張らなければという気持ちを抱いた次第です。ご容赦ください(笑)。

今年度は新しい研究体制に変わり、研究室の改装も順調に進んだ忙しい一年でした。ようやく環境が落ち着き、これからは学生・検査技師・研究者・医師・スタッフの連携や情報共有が円滑に進むことが期待されます。これによって、多様な視点やアイデアが交わり、研究の幅が広がるのが期待できます。今年はずいぶん、具体的な研究成果を形にし、世の中に発信したいですね。(瀬戸山大樹)